

★今週の聖句

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」  
ヨハネによる福音書 3:3

★ねらい

- ・「新たに生まれる」とはどういうことなのか、を考える。

★説教作成のポイント

- ・ヨハネ福音書をそのまま読むと、そのメッセージは、洗礼を受けクリスチャンになった人が神の国に入る、ということである。では、「クリスチャン」とはどういう人なのだろうか。

★豆知識

- ・新しい人：「十字架によって神と和解させられ、敵意を滅ぼされた人」エフェソ2章15節。

★説教

イエスは、子どものように神を求めることの大切さを説いた。しかし、ここで注意しておきたいのだけど、「子どもになること（子どものままでいること）」と、「子どものようになること（子どもの心を大切にすること）」は違う。

私たちは、イエスの教えを「子どもになること（子どものままでいること）」と理解していないだろうか。しかしこれだと、大人の否定、である。子どもたちは、それぞれが、大人になっていく。そして、その歩みをこそ、大人たちは支え応援するのだ。「自立し成熟した大人になってほしい」、と。では、子どもと大人の違いとは何だろう、その当たりから考えてみよう。

子どもとは、大人を「答えを知っている人」と想定している人のことである。だから子どもたちは、「あれはなあに」「これはなあに」と大人たちに尋ねるのだ。これに対して大人とは、答えがなにか分からなくても日々の務めを果たしていく人、と言えるだろう。人生の意味は何かその答えが分かったから仕事をする、という人は大人ではない。だって、これを逆さにすると、人生の意味が分からないから働かない、ということになる。これはまるきり子どもの意見だ。それに対して、大人は、人生は不条理な出来事との出会いであることを知っている。だから、人生の中で上手くいかないことがあっても、「うまくいかないからやめた」、と務めを放り出すことはしない。そうやってもいいけど、そんなことをしたらよけい大変になることを大人は知っているからだ。そう、大人は偉い、のだ。そして、だからこそ、つらい、のだ。しかし、だからこそイエスは、そんな大人たちに、子どものように神を求めることの大切さを説いたのだと思う。そして、そんな大人であったニコデモに、イエスは、「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」、と言われたのだろう。

新たに生まれなければいけない、と聞いたニコデモは、大人がもう一度子どもになることはできない、と答える。そう、大人は子どもに戻ることはできない。しかし、子どものように神（の国）を求めることはできる。私たちの世界は、弱いもの、無力なものが虐げられ続けているところである。私たちはそんな世界で生きていかななくてはいけない。自分が何をしたら世界は変わらない、とあきらめという波（虚無）にのまれてしまいそうになる。神の国を求めるとは、そんな波にのみこまれず自分が起点となり平和を目指す、ということではないだろうか。今日の聖句を逆さにすると、「神の国を見る（目指す）人は、新たな生命を生きる人」となる。これをイエスは、「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイ5章9節）とも言われた。

★分級への展開

さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

8 番

改訂版 1 2 番

やってみよう

ニコデモさんは夜、イエスさまの所に行きました。明るいときに行くのが恥ずかしかったからかな？

みんなの前できくのはちょっと恥ずかしいこと、あるよね。今日はニコデモさんのようにこっそりきいてみよう。

<用意するもの>

高学年 白い紙と鉛筆人数分

低学年 幼稚科 大きな布（ふろしき、カーテンなどなるべく黒っぽい色で）

☆高学年

内緒で聞きたい事を紙にかいて先生に渡します。

先生は誰がかいたか言わないでみんなに答えます。（紙に自分の名前を書かなくても良い）

☆低学年

先生は大きな黒い布を頭からかぶります。生徒はその中に一人ずつ入って夜にイエスさまを訪ねたニコデモさんのように先生に何か質問します。

※ ビジュアル聖書百科 P 2 8 3 ニコデモ 参照

はなそう

ニコデモ厳格に律法を守るファリサイ派でした。知識を持つ、きちんとした人でしたが、イエスさまをたずねてきて話を聞いても信じませんでした。それに対してイエスさまは「わたしが地上のことを話しても・・・」（3章12節）と言われました。

知識は、神の国に入るために大切でしょうか？また、行い、身分、お金などは大切でしょうか？

イエスさまは、なにが大切だとおっしゃっているのでしょうか？

みんなで話してみよう。

★今週の聖句

「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」

マルコによる福音書 2:22

★ねらい

- ・人間とは生成途上の力である、ということを考える。

★説教作成のポイント

- ・私たちは常に変わっていくものである。では、変わっていくとはどういうことなのだろうか。

★豆知識

・「織りたての布」(21節)は、直訳すると「まだ晒していない布」。晒していない布を洗濯すると縮んでしまう。だから、そんな布で継ぎあてすると、古い布をひっぱって破ってしまうのだ。

★説教

古い革袋に、新しいぶどう酒を入れたらどうなるか。新しいぶどう酒は、ぐんぐん発酵し、たくさんのガスを発生させる。そのため、もう皮が伸び切ってしまった古い革袋に新しいぶどう酒を入れると、破裂してしまうのだ。

さて、ここでイエスは、何を教えようとしているのだろうか。

私たちの「思考」をぶどう酒、その思考を表現する「言葉」を革袋としてみよう。私たちの思考は、子どもから大人になるにつれ、色々な経験、出会いを通して、広く深くなっていく。そのとき、私たちが子どものときと同じ言葉しか持っていなかったらどうなるだろう。

私たちは成長するにつれ、神の創造された世界の美しさを、単純さ（「神さまの造られた世界は素晴らしい」）だけでなく、その一つひとつの違い、複雑なつながりを通して感じるようになる。例えば、葉っぱ。幼稚園に入ったばかりの子どもたちに葉っぱの絵を描いてもらおうと、そのほとんどが「緑」単色で描くだろう。その頃の子どもたちだけは、単純に（素直に）世界の不思議を感じる心を持っているからこれでいいのだけど。

しかし、子どもたちは成長するにつれ、葉っぱは「緑」単色でないことに気づく。そして、その気づきと同時進行で、子どもたちの思考は広がり、深まっていくとする。だけどそのとき、子どもたちが「緑」という言葉しか持っていなかったならば、広がっていきこうとしている（深まっていきこうとしている）思考は行き場をなくしてしまうのだ。そして、行き場をなくしてしまった思考は、神の創造された世界の美しさを「単色」でしか語ることでできないイライラを内に抱くようになる。そうじゃないと気づいたのに、それを表現できないイライラ。私たちはイライラを内に抱いたままにしておきたくない。そうなってしまったとき、人はイライラを解消するために、「神の創造された世界の美しさ」を忘れようとするのだろう。もしくは、「緑しかない」と言い張るようになるか、だろう。

私たちは、神の創造された世界の美しさを表現するのに、「緑」色だけではなくて、萌黄色・松葉色・木賊色・緑青色・柳煤竹色・若竹色・・・があることを学ばなければいけないのだ、と思う。

そのために私たちは本を読むのだろう。「思考」と「言葉」は同時進行で広がり深まっていく。そしてそれは、どこまでいっても終わることはない。しかしその過程で、私たちは、一人ひとりが違っていること、そしてその違いが尊いということの本当の意味を、神の創造された世界の美しさを知ることができるのだ、と思う。

09/06/14

★分級への展開

さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 番

改訂版 8 番

やってみよう

<用意するもの>

古い布（着物の古い端切、何度も洗った夏服の端切など出来るだけ古いぼろぼろの物）

新しい布 針、糸、ハサミ

高学年 それぞれに古い布と新しい布を 10cm 角程度

低学年 古い布、新しい布を大きめに

☆高学年

生徒は古い布と新しい布を自分で縫い合わせてみる。その後両方を引っ張ってどうなるか試してみる。

☆低学年

大きめのハンカチかタオルくらいの古い布と新しい布を先生が縫い合わせて皆で引っ張り合ってみる。

※ ビジュアル聖書百科 p128 皮袋の絵

★古い布が手に入りにくい場合 ペットボトル、昔の水筒、竹筒、瓢箪、等、お酒や水を入れていた物、（実物や写真）を集めてみんなで水を入れてみたり出してみたりしてどれが便利か、較べてみても面白い。

はなそう

ファイサイ派の人たちはイエスさまの教えをよいものと認めませんでした。

イエスさまは、どんなことを大切にされていたのでしょうか？イエスさまの行われたことを、聖書の中から拾い上げてみよう。

★今週の聖句

「人が安息日のためにあるのではない。」

マルコによる福音書 2:27

★ねらい

- ・安息日はあなたのためにある、ということ学ぶ。

★説教作成のポイント

- ・イエスは何を示そうとされているのか。

★豆知識

- ・安息日が定められた聖書的背景は、創世記 2:2、申命記 5:15、に記されている。

★説教

ミシュナ（ユダヤ教の口伝律法を文書にしたもの）の中の『安息日』7:1以下に、安息日にはいけないことの表がのっているが、そこに「種蒔くこと、耕すこと、取り入れをすること・・・」というのが出てくる。また、「耕作と刈入れ」を安息日に休むべきことについては、出エジプト記 34:21に記されている。それに対して、申命記の 23:25には、他人の所有する畑であっても、通りすがりに麦の穂を手でつんで食べることは許される、という規定が記されている。他人の畑に鎌を入れて刈れば、他人の所有物を盗むことになるが、お腹のへった時に通りすがりにつんで食べるぐらいなら、寛容をもって許される、というのである。また、ユダヤ教のラビ、シメオン・ベン・メナシヤは、「汝らのために安息日が与えられたということで、安息日のために汝らが与えられたのではない」と言っている。この言葉、まさに、イエスの言葉「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」と同じである。

さて、ここで、今日の福音書の物語を整理してみよう。

ここでのメッセージは、

- ① 「耕作と刈入れ」を安息日に禁じている律法(出エジプト 34:21) と、お腹のへった時に麦の穂を手でつんで食べることは許されるという律法(申命記 23:25)の優劣を論じているのではない。
- ② 「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」というオリジナルな解答(真理)が素晴らしい、ということではない。

では、これらを踏まえた上で、イエスは何を私たちに示そうとされているのだろうか。それは「姿勢」ではないだろうか。イエスの言葉が示そうとしているのは、物事への正しい解答ではなく、物事への向き合い方なのだ、と思う。

「安息日を聖とせよ」、これは十戒の中の大切な戒めである。イエスはこの戒めの無効を宣言されたのではない。安息日(休息を取ること「創世記 2:2」、神の恵みに感謝すること「申命記 5:15」)を守ることは大切なことなのだ。しかし、だからといって私たちが、安息日を守れない人を無価値な人間であると裁いたらどうだろうか。それは間違っている。安息日を守りたくても守れない人もいる。また、安息日なんてどうでもいいんだから、という人は、大切なことを取り違えているのではないだろうか。正義が峻厳に過ぎると他者を裁いてしまうことになる。またすべてが赦しだと人は無責任になってしまうだろう。では、どうしたらよいのか。模範解答はない。あなたが責任をもって応答するものになる、ということ以外は、安息日はあなたのためにあるのだから。

09/06/21

★分級への展開

さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

103番

改訂版58番

やってみよう

<用意するもの>

麦 花屋さんで売っている青い麦2〜3本

ない場合は麦を画用紙に描いて切り抜いてもいい。

輪になって座り両手を後ろに廻して床の上を動かし麦を探す。

鬼は輪の外側を歌い乍ら麦を持って廻る。

歌っている間に誰かの後ろにこっそり麦を置く。

後ろに麦があることを見つけたこどもはすぐに麦を持って立ち上がり輪の外側に出て鬼を追いかける。

鬼は捕まる前に立った子どもの席に座る。麦を持った子は鬼になる。

座る前に捕まったらもう一度鬼になる。

♪ ハンカチ落としの歌 おとした、おとした、麦の穂落としした、

拾った方は追いかけておいで 拾った方は追いかけておいで。

※ 安息日ビジュアル聖書百科 p155 安息日

はなそう

「きまり」ではなく、主に信頼し、聞き従うことの大切さをイエスさまは教えられました。

神さまやイエスさまに、聞き従いながら生きていくためにはどうすればよいでしょうか？

みんなで話してみよう。

★今週の聖句

「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。」  
マルコによる福音書 3:4

★ねらい

- ・責任と使命について考える。

★説教作成のポイント

- ・イエスの言葉に権威を付加するために、安易な知識でユダヤ教（ダレか）を貶めてはいけない。

★豆知識

- ・「人間生命は安息日の掟をこえる」ということは、ユダヤ教の根本原則であった。イエス以前のまたイエス以後のラビたちの多くがそのことを書き記している。
- ・「人間の生命を救うことは安息日を押しやる。」出エジプト記のラビ注解「メキルタ」より。

★説教

学校とは、子どもたちが学ぶところである。学ぶことが好きではない子どもたちがいたならば、学ぶことの楽しさ、素晴らしさを教えてあげるところである。教育基本法にはそのように書いてある。

しかし、学ぶことは、初めから楽しいことばかりではない。いや、きっと楽しくないことの方が多いだろう。基礎を身につけるには、繰り返すこと、つまり努力と忍耐が必要だからだ。努力と忍耐はそれだけではあまり楽しくないことだと思う。

そこで、努力するのはいやだなあ、我慢するのはいやだなあ、と思っている子どもたちがこう言ったとする。「学校は勉強だけをやる場所ではない」、と。

大人たる者は、はっきり・きっちりと子どもたちに宣言しなければならない。「学校は勉強をやる場所です。教育基本法にはそう記してあるのです」、と。それが大人たちの責任ではないだろうか。

さて、前の週の説教の中にも記しているが、ミシュナ（ユダヤ教の口伝律法を文書にしたもの）の中の『安息日』7:1以下に、安息日にしてはいけないたくさん決まりごとが記されている。その一つひとつは、安息日を大切に守るために、じっくり時間をかけ議論してできあがったものたちである。つまり、その決まりごとの膨大な数が表しているのは、安息日の大切さを守るためにはこれだけの努力と忍耐が必要です、ということだろう。つまり、それを実践していたイエスの時代の人たちは（ユダヤ教徒の人たちは）、安息日をそれだけ大切にしてきた、と言えるのである。

私たちがこの視点を抜きにして、あんな膨大な決まりごとを守っているユダヤ教徒は愚かな律法主義者だと見下しているならば、それは、律法を守るかどうかでイエスを訴えようとした人たちと同じ視点に立っていることになってしまう。または、単語を繰り返し繰り返しノートに書き綴りながら憶える努力を馬鹿にすることになるだろう。

学ぶことの楽しさと素晴らしさは、努力と忍耐の先にあるものだ。何万の単語を憶えたからお終い、ではない。学ぶことの楽しさと素晴らしさは、それらを用いて自分で考える、ということの内にあると思う。イエスは言われた。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか」、と。イエスの言葉を、努力と忍耐を無効にする言葉として聞き取ってはいけない。そうではなくて、イエスは、その向こう側にある責任と使命（人生の喜び）について語っているのだから。

「手を伸ばしなさい」、イエスは私たちにも、同じように語りかけておられる。

★分級への展開

さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 番

改訂版 4 8 番

やってみよう

<〇〇さんが言いました>のゲームを「イエスさまが言われました」にしてぶぶ遊ぶ。

輪になって座る。

鬼は真ん中に立つ。

鬼は「イエスさまが言われました」と前置きを言ってから最初に「手を伸ばしなさい」と言う。その後は好きな動作を自由に指示して他の人は従う。「イエスさまが言われました」と言う前置きのない時は従わなくて良い。前置きがないのに言われた動作をしてしまったら間違い。3回間違えたら鬼を代わる。

鬼が代わっても最初は「イエス様が言われました、手を伸ばしなさい」で始める。

はなそう

イエスさまは神の子として行動しておられましたが、ファリサイ派やヘロデ派の人々はこれを認めず、イエスを殺そうと考えました。

「分かっているけど、受け入れられない」そういう経験は、あなたにありますか？考えてみましょう。

そして、みんなで分かち合ってみましょう。